

マウスピース治療患者の

36%に眠気検査（MSLT）が必要

2020年2月

千代田区内幸町の日本プレスセンター内で歯科医院を開業する小野澤彰先生（日本睡眠学会歯科専門医）が「マウスピースによって治療を行った睡眠時無呼吸症候群患者の36%が異常な眠気を自覚し、眠気を正確に測定する検査MSLTが必要である」と令和2年2月15日に品川インターシティホールにて開催される第57回睡眠呼吸障害研究会に報告する。

今回の調査は東京都渋谷区の片平歯科クリニックに通院する443名の睡眠時無呼吸症候群患者のうちマウスピースの効果を精密検査（OAPSG）で確認した47名を対象としている。47例のうち1例はマウスピースの効果が不十分であったため除外し、残った46例でマウスピース治療により残存した無呼吸指数（残AHI）と治療後のエプワース眠気尺度（術後ESS）を比較したところ、調査した36%の患者で眠気検査（MSLT）が必要との結論に至った（左図）。

